

2018年3月20日

「次の120年に飛ばたくイノベーション」に向けて
ベンチャー企業への出資枠を新設します
京急電鉄はオープンイノベーションを推進します

京浜急行電鉄株式会社（本社：東京都港区，社長：原田 一之，以下 京急電鉄）は，オープンイノベーションを推進する新たな取り組みの一環として，ベンチャー企業への出資枠を2018年度より新設いたします。

京急沿線のライフスタイルを豊かにし，持続可能な社会を築く事業や，当社既存事業とのシナジーを見込める事業を展開している主にシード・アーリーステージ（注）の複数のベンチャー企業等に対し，数百万円から数千万円の出資を行うことを想定しております。出資先企業には京急グループのリソースを活用した製品・サービスの社会実装支援も行います。

特に2017年10月より実施している新規事業創出プログラム「KEIKYU アクセラレーター」と連動し，採択企業を中心に出資の検討をする予定です。不確実性の高い市場に挑戦するベンチャー企業に出資を行うことから，当枠はスピード感を持って運用し，出資を実施してまいります。

また，当社では今後もオープンイノベーションの取り組みを積極的に進め，次年度以降さらなる出資枠の拡大等の検討を進めていく予定です。

京急電鉄は2018年2月に創立120周年を迎えましたが，新規事業創出の取り組みに積極的に挑戦し，今後も更なる発展に向け一層の努力を行って参ります。

【出資枠の概要】

出資対象	当社沿線の価値向上や課題解決に繋がる事業，当社既存事業とシナジーの見込める事業を展開するシード・アーリーステージのベンチャー企業等
出資規模・総額	1件あたり数百万円から数千万円（初年度は総額1億円）
主な支援内容	資金調達支援，助言，当社リソースを活用した製品・サービスの社会実装支援

（注）

シードステージ…コンセプトやビジネスモデルが存在し，製品等のプロトタイプにより事業性を検証する段階

アーリーステージ…製品・サービスをリリースし，顧客が付き始め，ビジネスモデルを試行錯誤する段階